

癌細胞は、異常な選択的 RNA スプライシングによって正常細胞が持たないタンパク質を発現させることで治療抵抗性を獲得する。申請者らは最近、スプライシングを制御する SF3b 複合体の構成因子の 1 つ SF3B2 の発現増加によって去勢抵抗性前立腺癌、膀胱癌、肺腺癌、乳癌、頭頸部腫瘍、AML の 6 種類のがんで予後が増悪化することを見出した。本研究は、SF3B2 による腫瘍増悪化機序を明らかにすると共に、SF3B2 による選択的スプライシングのみを阻害する手法の開発に取り組んでいる。